



北海道大学校友会エルム
HOKKAIDO UNIVERSITY
ALUMNI ASSOCIATION ELM

エルムだより

2023 Spring Vol.6

【特集】

グローバルリーダーを目指して

— 山口理事・副学長と新渡戸カレッジ修了生との対談 — 02

【対談】向き合った先に見えたもの

— 国際インターンシップ参加者の対談 — 06

校友会エルムの支援活動 — 09

お知らせ 01 卒業生電子名簿の整備 — 10

お知らせ 02 創基 150 周年について — 11

北海道大学(校友会エルム登録)同窓会一覧/
INFORMATION — 12



構内に自生する「エンレイソウ」です。本学のシンボルマーク
(表紙上段の中央)は「エンレイソウ」を図案化したものです

グローバルリーダーを目

——山口理事・副学長と新渡戸カレッジ修了生

【山口理事】

皆さんが新渡戸カレッジに入校した動機、あるいは具体的にプログラム内容のどこに魅力を感じたか、きっかけをお話ください。



山口 淳二
理事・副学長

私は、中学3年生の時にイギリスに短期留学をしたことで、大学に入ったら留学をしてみたいという気持ちをずっと持ちながら高校生活を送ってきました。

また、自分の出身は東京なのですが、大学で北海道に行きたいというのが先にあって、北大に入るなら新渡戸カレッジにも入りたい、というのが動機の順番だったかなと思います。

新渡戸カレッジに入りたいなと最初にしたのは、新渡戸カレッジが「グローバル」と「リーダーシップ」を前面に押し出していることを知ってからです。その二つのワードがすごく当時の私には響き、この二つを網羅している新渡戸カレッジにとにかくチャレンジしてみようという気持ちで入りました。

【清水さん】

大学に入ったのなら留学でしようみたいな留学への意識は大学入学前から、それでたまに新渡戸カ



清水 嘉人 さん
(環境科学院 M1)

レッジのチラシが入学式で配られた資料に入っていたので、こういうのがあるなら、入ってみようかと思ったのがきっかけです。細かく内容を知っていたというよりも留学に対するサポート英語の学習っていうところに関心を持って、元々自分が関心あったこともあり、サポートしてくれるのだろうと思って入校したというのが一番ですね。

【北村さん】

私は出身がニュージーランド、小、中はオーストラリアで過ごしました。幼少期に持っていたオー



北村もあな さん
(水産学部 4年)

ストラリアの大学のキャンパスのイメージと、北海道大学の広くて自然豊かなキャンパスが一致していたため、オープンキャンパスで一目惚れして北海道大学を選びました。大学の合格通知が届いたときに封筒の中に新渡戸カレッジの案内があったのですが、新しい大学でまず一つの居場所になるのではないかと、他学部の色んな友人と出会いたいな、という単純な思いで応募してみました。

【壽賀さん】

私の出身高校では、高大連携という高校と大学が連携する過程で、新渡戸カレッジのフェローゼミに高校



壽賀 太陽 さん
(経済学部 2年)

生体験で参加できる機会ありまして、それをきっかけにサークル感覚、今思えばそんな感じだと思うんですけど、取りあえずやってみようというように、結構シンプルな動機でした。

【山口理事】 私はずっと新渡戸カレッジのOB・OGの方たちと交流を続けていますが、グローバル基礎科目等のカリキュラムがきつかった、というよ

——北大への進学は新渡戸カレッジ入校のため

【川手さん】

私は、高校在学時に志望大学を考えるタイミングで、大学は何をしたらいいのかということもまだ全然わ



川手紅梨子 さん
(文学部 3年)

からない状態で、とりあえず情報収集をして、地元の北海道大学を調べた際に新渡戸カレッジを知りました。通っていた高校もそうだったのですが、「グローバル人材育成」に力を入れていて、新渡戸カレッジでは留学支援という言葉にすごく惹かれました。

【大久保さん】

入校の動機は、端的に申し上げて、2点あります。語学力の向上が1点目で、2点目はいろ



大久保結羽 さん
(保健科学院 M2)

んなバックグラウンドを持った人たちと知り合いになりたいということでした。

指して との対談

うな意見を聞いておりますが、いかがでしょうか。

—— 苦勞して得たものは人との繋がり

【壽賀さん】 新渡戸カレッジは語学力より、より実践的な種目はフェローゼミのイメージの方が先行して、実践的なディスカッションが行われる場とされていますから、ちょっとブレーキがかかるかなと思う反面、話の内容そのものとしては、海外留学に関する話が結構多数ありました。その意味ではすごく実践的な知識を得られる場もあって、興味深い部分が多かったなという印象があります。

【大久保さん】 教養課程のタイミングで新渡戸に入校する人は多いと思うのですが、夏あたりからだんだんと数が少なくなっていき、ぐっと減るタイミングが秋の本入校のタイミングだと思います。仮入校の学生たちは全員グローバル基礎科目を受けますが、学生の中にはそれぞれがイメージしていた新渡戸カレッジの中身とグローバル基礎科目の中身にギャップを感じた人も多かったように思います。

私は、自分の中の漠然としたイメージなのですが、グローバル基礎科目は新渡戸カレッジからの挑戦状というような感じがしています。そこを乗り越えたら後期のフェローゼミや、実際の留学などでどんどんステップアップしていけるというように、カレッジ生としての土台をつくる段階としてあるのかなというふうに思います。

【北村さん】 私もその意見に共感します。2学期に入ってから、自分の興味

のある分野に関して数ヶ月かけてみんなと一緒に学んでいくという、フェローゼミがありましたが、授業を受けてから、始めてその価値に気づきました。

新渡戸カレッジのプログラムで、受講して一番よかったなと思っているのがフェローゼミです。基礎プログラム生として1回、チューターという立場で3回経験しました。新渡戸カレッジは、英語ができるようになるプログラムではなく、自分が興味のあることを見つけるきっかけづくり、そして興味を持ったことに取り組める環境があるプログラムだと今では思っています。

私は、英語や留学というよりも、それ以外の部分が新渡戸カレッジに入ってからよかったなと思う理由です。新渡戸カレッジに応募した時のイメージと実際に受講したあとの新渡戸カレッジのイメージには、良い意味で、かなりギャップがありました。

【山口理事】 元々新渡戸カレッジ自体が国の方針として、日本の若者が内向きだから、そういう人たちをちゃんと海外に目を向けて留学させ、そのためには英語力をしっかり修得させるという方針があって、これに沿った形でデザインしたということです。

最初に留学と英語力というのがあって、実際に入校条件も英語能力のスコアということになっているわけですが、大学で養うことはもちろん基礎的な知識というのはそれぞれの学部学科でやればいいわけで、人間力とかジェネリックスキルとか、そういうところを養うべきだということを設立時から考えていました。

【川手さん】 私は1年次の新渡戸カレッジ仮入校の時点で、グローバル基礎科目など関連授業が全てオンラインで実施され、せっかく色々な人と出会って対面でディスカッションができるのに、オンラインを余儀なくされる状態が続いていました。ただ、私がそ

こで感じたのは、オンライン、オフラインに関係なく、それぞれのグループや人によって、どんどんディスカッションが進んだり、オンラインだからという理由で段々しおれていってしまったり、本当にバラバラで、やはり取り組みの仕方は、人によって変わってくるのだなと思いました。

【山口理事】 アクセラレーターとかプロモーターっていう人がグループの中に1人でも2人でもいると全然違ってくるですね。そういう人たちがいて、人の繋がりをちゃんと保てるグループはうまくいくけど、そういう形の積極性がないとなかなかうまくいかない。これはもうオンラインは本当に如実に出てきてしまうかもしれないです。

【清水さん】 自分は結構グローバル基礎科目、結構楽しんで履修させていたで、色々な先輩の方がこういうことをしてきたっていうのを聞くのがすごく楽しかったんですけど、あまり楽しめていない人たちもいました。グループワークでいままで全く知らない人と一緒にグループに分けられて結構ストレスのかかる授業でしたね。多分、今まで高校ではそういう場もなくて。グループで何か成果を出せ、みたいな、そういう場はなかったの。そこで初めてやるという点での多分ストレスが結構高いのかなと思います。

【壽賀さん】 その話で僕は高校で元々国際バカロレアというプログラムを取得はしなかったんですけど、途中まで参加して、そういう課程だとやっぱりディスカッションして、何か最終成果物を出すということが、結構当たり前じゃないですけど一連の流れとしてあったので、僕は1年生のときに基礎科目に参加して今年もチューターで参加したんですけど。そういう議論を通じて、何か最後に残す。というのに慣れてない学生がたくさんいるということにちょっと驚いた。という節がありました。

【山口理事】 皆さんもそうなのですけども、先輩がしっかりとチューターみたいな形で入ってもらうことで、今まで新渡戸っていうのは同級生というか横の繋がりはあったわけだけど、それが縦の繋がりで大きな意味でのネットワークっていう形になっていくのはいいなと思っています。

プログラムの内容とか運営に対する要望があればお願いします。

【清水さん】 自分が新渡戸カレッジで得られたことは人間関係だと思っています。色々な人たちが新渡戸カレッジに入っていて、多くの人と知り合いになることができましたが、全然知り合いになれなかったっていう人たちもいて、何かランダムに繋がりが生まれるような場があったりするのいいと思います。

【大久保さん】 皆さんが経験されたかどうかはわからないのですが、1年生のときには北部食堂で立食パーティーがあって、何かイベントがあるごとにそのような会が開催されていて、すごく楽しくて好きな時間でした。

【川手さん】 私は北大の留学生と多くの繋がりを得ることができたのですが、新渡戸カレッジと北大留学生の連携という観点で1つあります。北大にいる日本人新渡戸生は留学生と交流したいと感じていると思います。その両者の濃い繋がり作りの機会があったらいいのかなというふうに思いました。

【北村さん】 今の川手さんのお話と少し似ているのですが、私は留学には全く興味がなくて、むしろ北大の中で留学経験ができないか考えていました。

実は留学生と交流するきっかけは、新渡戸カレッジからのメールのイベント案内や、校内に貼られているポスターとか、片端から目に入ったものに参加してみると意外とたくさんあります。参加してみるまで、気づかないところに留学生との繋がりができる入り口があって、それを見つけたと

きに本当にそれを利用できるかはもう自分のタイミングとか、ちゃんとそこにその場所にその時間に行けたとかそういうことになってくると思います。

ですが、札幌キャンパスにあるチャンスと函館キャンパスにあるチャンスはやっぱり札幌の方が多いです。水産学部の後輩の皆さんには、函館に行くということがネガティブなことにならないよう、挑戦する機会が平等にあるようなシステムが欲しいなと思っています。

例えば金曜日の夜に函館のキャンパスから札幌までバスが必ずあるから乗りたい人全員乗りましようとか、お金がなくても、何かに挑戦するために札幌や東京、海外でのイベントに参加できるように金銭的な援助が欲しいです。

【山口理事】 最後にフェローやメンターのサポートとか、新入生に向けたアドバイスやメッセージをお話したいのですが、いかがですか。

【大久保さん】 フェローやメンターによるサポートについてお話をさせてください。

私は、学部的时候はずっとリハビリを勉強していて、学部卒業時に理学療法士の国家資格を取り、今は大学院に所属しながら脳神経外科で理学療法士の非常勤職員として働いています。ですが、大学院卒業後のキャリアには、これまでの学びから想像すると大きく異なる業界で働くことを選びました。これには新渡戸カレッジがものすごく大きく影響しています。保健学科であれば、4年間勉強して卒業時に国家資格を取ったら、そのまま病院に就職というキャリアの歩み方が一般的です。しかし、カレッジ生として色々な業界の方のお話を伺ったことで、自分のキャリアは必ずしも病院に就職することだけではないなということを強く感じるようになりました。偉大な先輩方から影響を受け、自分のキャリアに幅を持ってより広い視点で考えるように

なり、とにかくチャレンジしてみようということで一般企業への就職活動を始め、実際に就職活動を始めてからも沢山のサポートをしていただき、結果として第一志望の業界・企業から内定を頂くことが出来ました。

【山口理事】 なるほど、だから逆に言うと厳しい中でも新渡戸カレッジを続けられたということもあるのですね。

【大久保さん】 学部の活動だけでは得られない出会いを経験し、様々な考え方に触れ、自分の物の見方が深く、広くなっていく感覚がずっとありました。カレッジ生としてもものすごく多くの刺激を得られるという点で、そういった機会を取りに行くために続けたという部分はかなり大きかったと感じています。

【川手さん】 新入生に対するアドバイスということで、皆さんおっしゃっていたのですが、新渡戸カレッジに関してしっかりとした知識が無くても、そこまでやる気に満ちていなくても、ちょっと気になったら一旦入ってみたらどうでしょう、というふうに思います。私は新渡戸カレッジに関してかなり情報収集してから入ったのですが、例えば留学に興味があっても、コロナで留学できなくても、新渡戸カレッジのなかで学んでいく中で、自分の興味関心がいろいろと広がっていくということを私も実感したことなので。とりあえずやってみようかなという気持ちで、入ってみたらどうかということをお伝えしたいです。

【壽賀さん】 僕が一番新入生に近い立場だと思うので、そういう意味で言うと僕もまだまだ活動途上っていう感じではあると、その中で活動楽しみたいというのは見出せて、これから先どうしようかなっていう選択肢がいっぱい新渡戸カレッジに入ることによって与えられてきた身だなと思うので、新入生はさっきおっしゃったようにもっと気軽にそして友達作りみたいな感じで入っても

らってもいいのかなと思います。

【北村さん】 新入生のアドバイスということで、北大は他の大学に比べて総合入試制度があったり、将来何がしたいかが決まっていない人がかなりの割合でいるのではないかなと思っています。私もその1人で何も決まっていま
せんでした。もし、私のように、一年生の時点で何も決まっていなかったら目に入ったものに全部参加してみ
てほしいと思います。ここで重要な
が、苦しくならないよう、新しく挑戦
してみて、自分には合わないと思っ
たら、辞めてもいいと決めておくこと
です。

【大久保さん】 皆さんが、ものすごく
いいことを仰ってくださっていたの
で、共感しきりにお話伺っていまし
た。プラスするのであれば、今の話も
関連しますが、自分ができると思った
ところの一步先までチャレンジしてほ
しいなと思います。私もフェローゼミ

で作ったアイデアをそこで終わりに
するのではなく、実際にベンチャー企
業に泊まり込みでプレゼンしに行ったり、北海道教育局に訪問し職員の皆様
と意見交換したりと、どんどん実現に
向けて膨らませていった経験がありま
す。もちろん新渡戸カレッジは授業の
一環なので、「ここで終わりです」と
いうタイミングが一応あるとは思って
いますが、そこで終わらずに次はどう
していこうかと考えたり、どういう人
たちを巻き込んだらもっと楽しくなる
のかを考えたりすることで、当初自分
で考えていたビジョンのもっと先を創造
していったほしいなと思います。

新渡戸カレッジの環境下では「どん
どんはみ出ていいよ」と背中を押して
もらえる環境が醸成されていて、学生
同士ももちろんそれをよしとしています。

自分たちがいいなと思ったことがあ
れば、もっともっと先まではみ出て挑
戦してほしいです。

【清水さん】 自分も何かサークルって
いうことはすごいしくりくる。自分
と向き合える場なのかなってのは
ちょっと思っていて、自分がこういう
ことが得意、嫌いっていうことに気づ
ける環境なのではないかと思った。ま
たその先は人間関係として続けるのかス
タートアップとして続けるのかちょっと
わからない。人によって違うと思うん
ですけど。

【川手さん】 学部3年になったら就活
を始めようっていうことも本当に大変
なことなのですが、今のお話のとおり、
大学で皆が進む典型的な進路や、
引かれたレールを歩いていくという感
覚を少し忘れて、新渡戸カレッジに
入ってみたら、視野が広がって、自分
はもしかしたらあれよりもこっちの方
が興味あるかもしれない！ということ
が見つかるかもしれないので、やっぱ
りとりあえずチャレンジしてほしい
なって思います。



向き合った先に 見えたもの

— 国際インターンシップ参加者の対談 —

【川端先生】 国際インターンシップにご参加の動機をお聞かせください。

「FSP」(ファースト・ステップ・プログラム)は、学部1、2年生を対象とした、2週間程度の海外研修プログラムです。



川端 千鶴
(講師)

【小山さん】 僕が最初に国際インターンシップに参加しようと思ったきっかけは、「FSP」という主に1年生に向けた授業に参加したことです。現地で行ったこととしては、海外で働いていらっしゃる日本人の方と対談をする、また海外の大学生と交流するということでしたが、その中で特に海外で働く方とお話するという機会は、僕にとっては貴重なものでした。当時海外で働くというビジョンが全くなかったのも、そのような方々からお話を聞いたのはとても新鮮でした。それで海外で働くということに興味を持ち、自分から挑戦してみようと思いました。



小山 彰教 さん
(総合化学院 M1)

【江端さん】 私も小山さんと同様に「FSP」への参加をきっかけに、国際インターンシップにも挑戦するようになりました。「FSP」に参加したのは、医学部はどうしても閉じこもった世界で、医学部生とばかり過ごすことが多く、将来様々なバックグラウンドの患者さんに寄り添うには自ら視野を広げが必要があると思ったのがきっかけです。



江端 美織 さん
(医学部 5年)

高校の頃は国際交流に興味はありましたが、大学生になったら入学できただけで満足して、海外に挑戦しようという気持ちはしぼんでいました。ですが、「FSP」で海外に一步飛び出してみると、英語で異文化交流する楽しさや、海外でキラキラ活躍している方々への憧れを改めて実感し、もっと世

界で働く人たちを見たいという気持ちが強くなって国際インターンシップに参加しました。

【山下さん】 僕も動機は「FSP」です。「FSP」ではチームメンバーとの共同作業を通じて、密度の濃い時間を過ごせました。

「FSP」では過去の修了生がサポートをしてくださるのですが、先輩達がカッコよかったんです。そんな先輩達の多くが、セカンドステップとして国際インターンシップに参加していることを知って、僕も挑戦したいと思いました。

海外インターンシップは、名だたる大企業や国際機関の、それも海外拠点で研修が受けられます。そんな機会は北大学生にしかない！ このチャンスを逃したらもったいない！という思いで参加しました。



山下 颯斗 さん
(工学部 2年)

【齋藤さん】 私は高校時代北大に憧れて、全力で勉強を頑張りました。合格したのがとても嬉しく、新しい学生生活を楽しみにしていましたが、新型コロナウイルスによって全て制限されてしまい、一気にやる気を失いました。何をすればいいかわからず、でも何かに挑戦したいなと思い見つけたのが、本インターンシップと同様、川端先生と井上先生がご指導されている、「FSP」というプログラムです。

「FSP」では、社会人基礎力や働くために必要なこと、コミュニケーションだったり、チームワークだったりの重要性を、海外の研修先で働く日本人の方々からお話を伺うことで学びました。「FSP」での学びを踏まえて、実際に働く場面では、コミュニケーション力というものはどう活かされているのかを知りたく、セカンドステップとして、一つひとつの企業に入り込める国際インターンシップを選びました。



齋藤 梨乃 さん
(医学部 3年)

【川端先生】 国際インターンシップに参加して、苦労したことや得られたものをお聞かせください。

【小山さん】 今回が3回目の参加でしたが、今年初めて対面で参加させていただいて、シンガポールのコンサルタント会社に2週間行ってきました。

主な内容としては展示会に参加して、商品を販売する営業を行いました。でも、そもそも日本語で営業をしたこともないのに、それをいきなり英語でやらされるのが結構きつかったです。何を喋ればいいのかわからない、そして英語がうまく伝わるかもわからないという部分は正直不安でした。

でもその一方で、シンガポールの方、来場された方ってすごく優しく、こちらがただただ話していても、相手はちゃんと聞こうとしてくれて。それでこっちももっと頑張っ
て喋ろうという気にさせられました。シンガポールという国
自体3割くらいが外国の方なので、多分寛容性がすごく広い
だろうなという印象を受けました。自分は正直、英語に自信
があるわけではないですが、こんな自分でも海外でやってい
けるのだなという自信を得られました。

【江端さん】 私は過去2回国際インターンシップに参加して
いますが、1回目が大塚製薬株式会社様のインドネシア支
店、2回目が中外製薬株式会社様の台湾支店と、どちらも製
薬企業でした。

元々英語が好きで日常会話はそれなりにできるだろうと甘
く考えていましたが、インターンシップとなると専門的な内
容が多く、自分の英語力の無さを痛感しました。中外製薬株
式会社様で与えられたテーマが「薬価改定制度」について
で、正直日本語で説明されてもわからないんじゃないかなと
思うくらい、内容を理解するのも、さらにそれに関して自分
の意見を言うのもすごく難しくて。単語力、聞く力、話す力
がまだまだ全然足りないなと、開始1日目から愕然としたの
を覚えています。

でも先方の方々が忙しい中、時間を割いてとても親身に
アドバイスやディスカッションを続けてくださったお陰で、
なんとか最後には満足いくプレゼンテーションができました
。自分一人で海外の人と対話してプレゼンを作り上げたとい
う成功体験が、とても嬉しくて楽しくて。それを経て、今
度は自分の専門分野で海外の人とディスカッションできるよ
うになりたいと思うようになりました。今はその目標に向け
て、研究や米国医師免許試験取得に挑戦しています。

【山下さん】 私は株式会社大林組様の、バングラデシュにあ
る鉄道橋の建設現場で研修を受けました。首都ダッカから約
100キロ離れたところにあり、ダッカ空港から車で現場に向
かいました。クラクションが鳴り止まなかったり、ごみ山が
あったりと、日本じゃ見られない光景が広がっていて衝撃を
受けました。

研修中は、英語を聞き取るのがすごく難しかったです。最
初は聞くだけに徹していましたが、少しでも聞き取れたこと
を質問しました。段々自信がついて、一日の研修が終わった
後に、クリケットで遊んでいるバングラデシュ人職員の方に
声をかけて混ぜてもらいました。

【齋藤さん】 私は日本航空株式会社の北京支店様とオース
トラリア支店様での研修を、オンラインで参加しました。正直
に申し上げますと、一番苦労したのは、同じ研修先のメンバ
ーとのグループワークです。チームメンバーと話し合うことが

多くあったのですが、なかなか自分の思いが伝わらず、また
相手が何を考えているかもわからず、グループワークはうまく
進みませんでした。このとき、この状況と自分のもやや
した気持ちを、母にぶつけました。

母と話して気づいたのは、参加者によって国際インターン
シップに対する考えはそれぞれだということです。私は本イ
ンターンシップで、グループワークにも力を入れたいと考え
ていましたが、全員が同じ考えをもっているとは限らないと
気づきました。

このような視点で考えると、お互いの異なる考えを共有し
理解し合うことが、チームワークやコミュニケーションとい
うものなのかなと感じました。今回の研修中だけでなく将来
働くうえで、お互いを認め合うことの大切さに気づくことが
できたのは、この苦労があったからこそだと思っています。

【川端先生】 新入生の方、後輩生の方へのアドバイスメ
ッセージをお願いします。

【江端さん】 先ほど山下さんが機会損失とおっしゃっていま
したが、国際インターンシップは北大のOB・OGの方々に
ご協力いただいて成り立つ北大オリジナルのプログラムで、
活用しない手はないプログラムだと思っています。

一流企業の、しかも海外支店で、手厚いサポートも受けな
がらインターンシップできるプログラムを提供しているところ
は、本当に北海道大学以外ないと思うので、ぜひ皆さんに
参加していただきたいなと思っています。

【小山さん】 後輩の皆さんには、学生の間にしかできないこ
とをどんどんチャレンジしてもらいたいですね。僕は修士1
年ですけど、大学4年間と聞いたら長い期間だと思います
が、今振り返ってみると、意外と大したこともできないし、
短かったなという印象があります。でもその一方で、大学



シンガポール エルム会による国際インターンシップ参加学生との懇親会

生の間にしかできないことはたくさんあると思います。この国際インターンシップもその一つで、社会人になってから他の企業を知ろうと思うと利害関係とか、そういう点で言えないこととかもあったりすると思いますが、企業の方々が僕ら学生に対して心を開いて、自分たちの時間を割いて、何でも教えてあげようぐらいのスタンスで接してくれるのは貴重な機会だと思います。インターンシップでそういう垣根なく何でも教えてもらえるというのは、就活のインターンシップとはまた違う、この北大の国際インターンシップならではのと思っています。また、これまでの話の中で価値観が変わったとか、考え方変わったという話も出ていましたが、そういう人生観を変えるような出会いが得られるのもこのインターンシップの特徴なのかなと思います。

【齋藤さん】 企業での研修だけではなく、事前授業と事後授業が充実しているのも、国際インターンシップの魅力の一つだと思っています。事前授業では、研修前に国や企業について学ぶ機会がありました。ここでは自分の研修先を知るだけではなく、他の企業に研修する学生との情報共有もできました。事後授業では、参加者同士それぞれの学びを共有する機会があり、新しく得ることも多く、とても興味深かったです。

【川端先生】 大学に対して希望することや期待することがありましたらお聞かせください。

【江端さん】 国際インターンシップはいろんな企業で研修できるのが大きな特徴ですが、それぞれの企業様が独自にプログラムを作ってくれているため、その分やっぱりその企業様によって良くも悪くも内容に差が出てしまうとは感じています。国際インターンシップに興味がある学生が先輩生と交流する会もありますが、私自身先輩としてお話したいのに予定があると参加できないということも多々あり、もっと個人的にLINEでもメールでも後輩たちに経験を還元するような仕組みがあったら、魅力をより伝えられるかなと思っています。

【齋藤さん】 「FSP」の経験後、国際インターンシップの報告会に参加しました。そこでの発表者の方々はとても輝いていて、プレゼンも自分が「FSP」のときに発表したものよりも、はるかにレベルの高いものでした。国際インターンシップを通してこんなに成長できるんだと思い、私もこの参加を決めました。

ただ毎回の報告会に来る観客数は少ないと感じていました。この報告会に参加することは、国際インターンシップへの参加を決めるきっかけになると考えています。まずは、この報告会の存在をもっと多くの人に知ってもらえたらいいなと思います。



校友会エルムの支援活動

■■■

校友会エルムは充実した学生生活を送って欲しいとの思いから、
会員限定の特典を多数用意しています。
主な活動については次のとおり。

01 100 円朝食の実施



初めての一人暮らしの皆さん
食事に対する心配はありませんか？

新入生を対象として、栄養バランスに配慮した朝食を 100 円（残額校友会エルム負担：一人 30 食まで）で提供しています。
一人暮らし、キャンパスライフに慣れるまでの健康維持を応援します。

02 語学検定試験への補助



自分の英語力 知っていますか？

本学では、世界で活躍できる国際性豊かな人材育成に取り組んでいます。在学中の留学はもちろんですが、大学院への進学を検討している方は一定の英語力は必須です。1 年に一回、語学検定試験にチャレンジすることを応援します。

03 国際インターンシップへの支援



国際性豊かな人材とは？

本学では、国際的な就業体験を通して総合的な人間力を培うとともに、異なる社会・文化状況の中で国際性とリーダーシップを身に付けることを目的とした「国際インターンシップ」を応援しています。
(奨学金の給付)

04 就職活動への支援



まだ先？ すぐ先？ 就職活動どうしよう？

同窓生ネットワークを最大限に活用し、ビジネス界との橋渡しや就職活動の各種サポートを行います。

- ・オンライン企業研究セミナー
- ・OB/OG 講演会及び学生との懇談会
- ・就職相談・卒業生に訊く座談会
- ・企業 PR 動画のサイトの開設

※新型コロナウイルス感染防止対策の関係から開催できない場合がございます。

05 その他



友達できた？

- ・新入会員歓迎ジンパ
- ・クリスマスパーティー を開催します。

保護者の皆様へ

- ・保護者会員懇談会
- ・キャンパスツアー を開催します。

※新型コロナウイルス感染防止対策の関係から開催できない場合がございます。



／ 終身会員です。／
会費 2 万円

お預かりした会費は、
すべて校友会の支援事業
に支出します。

既卒者の皆様へお知らせ（含む令和4年度卒業者）

卒業生電子名簿の整備

卒業された皆様へのお知らせです。

北海道大学の公式システムとして令和5年度から運用予定の「卒業生電子名簿」と「卒業生連携ネットワークシステム」の整備を進めております。

このシステムをとおして卒業後も本学を身近に感じてもらえる様にする情報を発信します。

/// 登録の仕組み ///

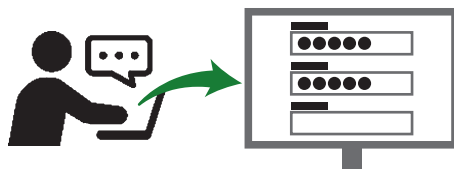
Step
1



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

本学公式ホームページから「卒業生電子名簿」登録サイトにお入りください。

Step
2



取扱いの規則をご確認・ご同意いただき、必要事項をご入力ください。

Step
3



登録いただいたメールアドレスに、卒業生連携ネットワークシステムで用いるIDとパスワードを発行（送付）します。
※発行に時間を要する場合がございます。

Step
4



北海道大学

通知されたID・PWにより「マイページ」から「大学からの情報」「同窓会からの情報」がご覧いただけます。将来的にはリカレント教育のツールとしての利用を検討します。



光は、北から

Ambition to enlighten the world

2026 年 創基 150 周年を迎えます

2026 年（令和 8 年）北海道大学は創基 150 周年の記念すべきマイルストーンの年を迎えます。

この 150 年の分厚い歴史と類稀な環境によって醸成された潜在力に磨きをかけ、唯一無二の「比類なき大学」として、世界の課題解決に貢献する大学を目指す次の 150 年のスタートにもなります。

私たち北海道大学は「光は、北から」を合言葉に、創基 150 周年記念事業を進めます。

150th
HOKKAIDO UNIVERSITY

本学の象徴であるエンレイソウをモチーフにして、北海道大学創基 150 周年を記念したアニバーサリーロゴを作成しました。

創基 150 周年 記念募金を設立しました

多様な人材が持続的に新たな価値を生むキャンパスへの転換に向けた「人と人を、時を、縁を、夢を、実を、結ぶ」をキーコンセプトとする古河講堂の改修・利活用事業や、未来社会を創造する人材育成事業「Innovation Front Runner（仮称）」など、次の 150 年を見据えた記念事業のため、皆様からのご寄附を募集しております。

目標総額

50 億円

北海道大学(校友会エルム登録)同窓会一覧

学部等同窓会

1 文学部同窓会	10 一般社団法人)札幌農学校同窓会
2 教育学部同窓会	11 獣医学部同窓会
3 法学部同窓会	12 水産学部同窓会
4 経済学部同窓会	13 国際広報メディア・観光学院同窓会
5 理学部同窓会	14 医学部保健学科・医療技術短期大学部同窓会
6 医学部同窓会	15 公共政策大学院同窓会
7 歯学部同窓会	16 環境科学同窓会
8 薬学部同窓会	17 北海道大学北楡会(情報科学研究科)
9 工学部同窓会	18 医理工学院同窓会

海外地区等同窓会

48 北海道大学中国同窓会	57 北海道大学バンコク同窓会
49 北海道大学台湾同窓会	58 マレーシア北大エルム会
50 北海道大学韓国同窓会	59 サハリン北海道大学校友会
51 ブラジル北海道大学同窓会	60 北海道大学フィリピン同窓会
52 上海北大エルム会	61 サイゴンエルム会
53 ジャカルタ同窓会	62 香港エルム会
54 タイ同窓会	63 北海道大学インドネシア同窓会
55 シンガポールエルム会	64 上海同窓会
56 ハノイエルム会	

国内地区等同窓会

19 一般社団法人)恵迪寮同窓会	34 北海道大学関西同窓会
20 北海道大学はっかいどう同窓会	35 京都エルム会
21 旭川北大同窓会	36 鳥取県北大同窓会
22 北海道大学函館同窓会	37 岡山北大エルム会
23 十勝エルム会	38 広島エルム会
24 北海道大学秋田県同窓会	39 北海道大学同窓会香川支部
25 岩手北大	40 愛媛エルム会
26 北海道大学宮城県同窓会	41 北海道大学高知県同窓会
27 北海道大学福島県同窓会	42 九州・山口北大エルム会
28 北海道大学茨城県同窓会	43 北海道大学同窓会佐賀県支部
29 北大栃木エルム会	44 宮崎エルム会
30 北海道大学東京同窓会	45 北海道大学大分県同窓会
31 上毛エルム会	46 鹿児島エルム会
32 新潟エルム会	47 食品産業エルム会
33 北海道大学中部地区同窓会	

各同窓会の詳しい情報はこちら

<https://www.alumni-hokudai.jp/about/alumni.html>



「北海道大学中部地区同窓会」の設立について

Information

・設立の経緯

名古屋を中心とする中部地区には、これまで地区同窓会が存在していなかったため、同窓生有志により、学部、世代、職域を超えた連携と交流を深めるため、新たな同窓会組織の設立に向けて準備を進めてまいりました。

このたび、企業や学部毎に組織されていた既存の同窓会に呼びかけを行い、多くの賛同者を得るとともに、これまで同窓会に加入していなかった同窓生に対する勧誘も積極的に行い、本年2月18日(土)設立総会の開催に至りました。

・本会の目的と目指す姿：若手卒業生も参加したくなる同窓会へ

本会は、母校と会員を結ぶ組織として母校の発展に協力するとともに、会員相互の交流、親睦などを目的として、以下の活動を行います。

- (1) 同窓会の運営は若手(平成卒世代)とし、さまざまな交流会(業種別・世代別等)、勉強会やリカレント教育の実施
- (2) 北大の教員による最先端の研究発表会や著名な卒業生の講演会の開催を通じて、母校との関係強化
- (3) 学生の就職活動の支援

・役員

会長 田口 敦史(法93卒):愛知県庁
副会長 阿部 直樹(工院06卒):(株)トヨタ
事務局 稲富 美仁(文00卒)
電話:080-4800-1713
加入申込先:Email hokudai.chubu@gmail.com

・本会会員の対象エリア

以下のエリアに在住または勤務したことがある卒業生を対象とします。
愛知・岐阜・三重・静岡・長野・山梨・石川・富山



北海道大学校友会エルム事務局

〒060-0809 札幌市北区北9条西6丁目 国立大学法人 北海道大学 百年記念会館内
TEL:011-706-2101 FAX:011-706-2010
MAIL:kouyukai@general.hokudai.ac.jp HP:<https://www.alumni-hokudai.jp>

